

スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム紹介 (令和6年2月時点)

令和3年度開始～令和7年度終了予定



プラットフォーム名:
京阪神 スタートアップ アカデミア・コアリション

参画機関

主幹機関: 京都大学 共同機関: 大阪大学、神戸大学、大阪公立大学、大阪工業大学、関西大学、近畿大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学、大阪産業局、京都知恵産業創造の森、幹事自治体: 大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、京都府、京都市、協力機関: 長浜バイオ大学、滋賀医科大学、京都府立医科大学、京都精華大学、京都女子大学、京都産業大学、関西文化学術研究都市推進機構、京都産業21、京都高度技術研究所、国際電気通信基礎技術研究所、京都大学イノベーションキャピタル、大阪大学ベンチャーキャピタル、日本ベンチャーキャピタル、三菱UFJキャピタル、SMBCベンチャーキャピタル、中信ベンチャーキャピタル、京信ノージャナルキャピタル、池田泉州キャピタル、京銀リース・キャピタル、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、りそな銀行、池田泉州銀行、京都銀行、みなと銀行、関西みらい銀行、京都中央信用金庫、京都信用金庫、三井住友海上火災保険、日本政策金融公庫、関西経済連合会、大阪商工会議所、神戸商工会議所、京都商工会議所、中小企業基盤整備機構、近畿本部、関西経済同友会、京都経済同友会、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン、堺市、関西広域連合、NTT西日本電通電話、三菱商事

目指すスタートアップ・エコシステム

大学・自治体・産業界・金融界から参加する68機関の特徴を活かした有機的な連携を推進し、都市を超えた人材・研究課題・資金の好循環を生み出す。バイオ・ヘルスケア・ライフサイエンス・ものづくりや情報通信分野を中心に、令和7年度末には2社のユニコーンを含む、90社以上の大学発スタートアップを連続的に創出し、プラットフォーム全体で起業家人材のすそ野を拡大することで世界に伍するスタートアップ・エコシステムを構築する。

(1) 起業活動支援プログラムの運営

- 参画大学が個別訪問、データベース、HPやSNSを活用して通年でシーズを発掘し、技術、および事業化の観点を同等に評価し、地域の課題解決からグローバルインパクトのある研究課題を幅広く採択する。プラットフォーム共通の専任支援人材を配置し、外部機関とも連携し、起業支援を高度化させる。
- Demo DayやPR活動を通じて、金融機関やVC、大手企業、メンター、先輩起業家と連結させる。
- プラットフォーム「ECP-KANSAI」の活動を通じて、CXO候補者を集める。

(2)アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

- 京都大学、大阪大学、神戸大学が中核となって地域共通基盤教育を共同開発する。参画大学が協力し、拠点都市全体で他大学の学生が聴講できる共有科目・プログラムを50科目以上整備する。プラットフォーム全体において5200名/年以上の受講者数をを目指す。
- ウェブ上のプラットフォームを活用し、域内の広範な大学の起業家教育プログラムへのアクセスを促進し、起業家教育の浸透とレベルアップを目指す。
- ユニークで質の高いアイデアを競う場として、ピッチコンテストを開催する。
- 女性起業家のすそ野拡大、高校生等への啓発などの人材育成活動も行う。

(3) 起業環境の整備

- 京都大学、大阪大学、大阪工業大学、大阪産業局、神戸大学を試作機器、動画撮影・配信機器、および交流の場として整備を進める。安全に配慮しながらオープン化を進め、起業家教育との連携や起業支援を行う。
- 起業を視野に入れた諸規定の整備が進んでいる大学の諸規定をモデル化し、各大学の実情も加味した各種規定の整備に務めていく。また、勉強会なども行い、新しい課題に対しても検討を行う体制を構築する。
- 京都、大阪、兵庫の各地域の代表機関が集まる窓口連絡会を設置し、個々の大学での対応が難しい起業に関する相談に地域として対応する。

(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展

- 「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」の追求するビジョンを踏まえた運営方針の決定とKPIの管理を行うためのプラットフォーム推進会議を設け、定例会やプログラム委員会を通じて参画機関・協力機関との意思疎通を図る。
- マッチング、Demo Day、学生ピッチイベントなどのイベントや勉強会を連続的に開催し、プラットフォーム内外における他のプログラム、枠組、金融機関、民間VC等との連携を強化することで、エコシステム形成・発展を推進する。
- これまでに培ってきた海外ネットワークとの連携をさらに深め、本プログラムから生まれるスタートアップ予備軍を積極的に送り出す。

活動成果

- 令和4年度は、GAPファンド採択プロジェクト27件について、研究シーズとそれを活用したビジネスモデルを研究者が発表する「KSAC Demo Day2023」の実施のほか、一度に複数社のVCよりメンタリングを受けられる場としてVCメンタリングサーキットの実施等を実施した。
- 京都大学、大阪大学、神戸大学を中心としてPBL形式の授業を開始した。カリキュラム委員会を形成し、カリキュラムの体系づくりを進めるほか、オンラインプラットフォームDOON!の開発より、各大学の起業化教育科目・プログラムを大学間で相互活用する仕組みを確立した。
- 起業に関する相談窓口連絡会を設置し、参画機関の有する知見やリソースなどを共有するとともに、京阪神広域をカバーする相談機能を構築した。また、起業を見越した関係諸ルールの整備を進め、適切な起業相談対応ができるような人材育成を目的とした講習会や担当者間の情報交換会を実施した。
- 「海外とのネットワーク形成」強化を目指し、アメリカのCiC Cambridgeと連携したオンラインセミナーの実施など、拠点都市としての魅力等の発信を行った。